単元計画作成について

教科名		学　年	
単元名	＊単元や題材など内容や時間のまとまりで作成する。	児童・生徒数	
		授業者	

１「深い学び」に向かう子どもの姿

＊単元の目標に合わせ、「深い学び」に向かう子どもの姿を選択し、明確にする。

２　単元の目標と観点別評価規準

＊学習指導要領に基づきながら、各学校の教育課程や単元の内容に合わせ、育成を目指す資質・能力を明確にする。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

＊単元の目標に合わせ、３つの観点での評価規準を設定する。

３　単元で働かせる見方・考え方

＊各教科の見方・考え方を、単元の内容に合わせ、明確にする。

４　パフォーマンス課題（〇〇）←選択したパフォーマンスの種類を明記する

＊単元の「思考・判断・表現」を評価するために、見方・考え方を働かせ、習得した知識及び技能を活用したり、応用したりする課題を設定する。
＊パフォーマンス課題の実施方法として、パフォーマンスの種類を明確にする。

５　ルーブリック

＊ パフォーマンス課題を評価するときに用いる数レベル程度の評価基準を明確にする。

６　ＩＣＴの活用場面と工夫

＊ 「深い学び」に向かうためのＩＣＴの活用場面と工夫について明確にする。

７　単元の指導と評価の計画（全〇時間）		
時間	学習課題（◆）　主な学習活動（〇）	評価の観点【　　】評価規準
1	★パフォーマンス課題・ルーブリックの提示 ＊学習課題は、単元の学習課題を解決することを基盤に、本時における学習課題を設定する。 ＊単元の内容等に応じて、単元の導入時など早い段階にパフォーマンス課題とルーブリックを提示する場面を設定する。	＊「２　単元の目標と観点別評価規準」に基づき評価の観点と評価規準を設定し、目標との整合性が図られているか留意する。 ＊単位時間の評価項目は１～２つを想定する。
	★ルーブリックの活用 ＊パフォーマンス課題につながる学習活動など必要に応じて、ルーブリックを活用し、身に付けた力や今後身に付けていきたい力などについて確認したり、今後の見通しをもったりすることにつなげる。	
	★ＩＣＴの活用 ＊「深い学び」に向かうためのＩＣＴの活用場面を明確にする。	
	★パフォーマンス課題（〇〇） ＊パフォーマンス課題を実施する場面を設定する。ルーブリックを活用し、目指す姿を明確にしたり、成果の把握をしたりする。	【思・判・表】